

## 第52回研究会の報告

第52回研究会は、9月9日（土）午後、明治学院大学・白金校舎で行われました。報告者は、菊地芳明さん（横浜市立大学）で、報告タイトルは「初期大学行政管理学会における大学職員論—計量テキスト分析を用いて—」でした。

計量テキスト分析は、「文章」という質的なデータを計量的に分析する方法で、具体的に単語の出現頻度や単語間の関係が明確になります。菊池さんは、大学行政管理学会の初期号（創刊号～第5号及び6号の一部）の掲載論文のうち「大学職員論」に関係すると思われる論文10本を今回の分析対象とされ、そこに表れる各用語の因果関係を明らかにされました。



大学行政管理学会は、学会という名称は付されていますが、大学職員の職能団体の色彩も強く、そこに頻出する用語は、必然的に管理・運営に関連するものが上位となります。このため、「大学の自治」や「学問の自由」といった用語との親和性は殆ど感じられないとのことでした。この点は、大学評価学会の設立宣言とは大きな差があります。

菊池さんは、今回の分析を契機として、継続して大学行政管理学会の論調の分析を試みられる予定とのこと。設置基準の大綱化以降、大学改革が常態化し四半世紀が過ぎました。まさに「改革のための改革」に大学は翻弄されているような気がします。大学にとって本質的な理念の重要性を再確認するためにも、菊池さんの研究の成果が期待されます。

（文責：村上孝弘）

